

ARIBからの
お知らせ

第65回電波利用懇話会

・「コグニティブ無線等のアメリカの現状について」・

ご案内

米国連邦通信委員会 (FCC) で長年無線施策担当者として勤務されたマイケル・マーカス博士が10月に来日の予定です。

この来日の機会にARIBの会員に対し「コグニティブ無線等のアメリカの現状について」と題し講演をいただくことといたしました。

講演は、英語のみで通訳はつきませんが、わかりやすくお話いただく予定です。

会員の皆様には、ぜひご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

- 1 日時 : 平成20年10月7日(火) 午前10時30分から12時まで
- 2 場所 : 社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル11階)
東京都千代田区霞が関1-4-1 TEL:03-5510-8592
- 3 題名 : 「コグニティブ無線等のアメリカの現状について」
- 4 講師 : 元 米国連邦通信委員会 (FCC) 次長
マイケル・マーカス博士
- 5 対象 : ARIB正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 80名程度(定員になり次第締め切らせていただきます)
- 7 申込先 : 当会ホームページの懇話会・講演会の申込受付まで
<<https://www.arib.or.jp/cgi-bin/semi/usr/general.cgi>>
- 8 参加費 : 無料
- 9 その他 : 英語での講演 (通訳はありません。)

電波行政の動き

我が国のインターネットにおけるトラヒックの集計・試算

2008年5月時点の集計結果の公表

(平成20年8月29日総務省報道発表)

総務省は、我が国のインターネットにおけるトラフィック（通信量）の実態を把握するため、インターネットサービスプロバイダ6社（以下「協力ISP」）（注1）といひます。）及び研究者（注2）の協力を得て、2008年5月時点のトラフィックの集計・試算を行い、今般その結果を「我が国のインターネットにおけるトラフィック総量の把握」

<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/pdf/080829_9_bt.pdf>のとおり取りまとめました。

2008年5月時点の我が国のブロードバンド契約者のダウンロードトラフィック総量は、推定で平均約880 Gbpsであり、1年間で約1.2倍（21.9%）となっています。（右記、別紙1のとおり）



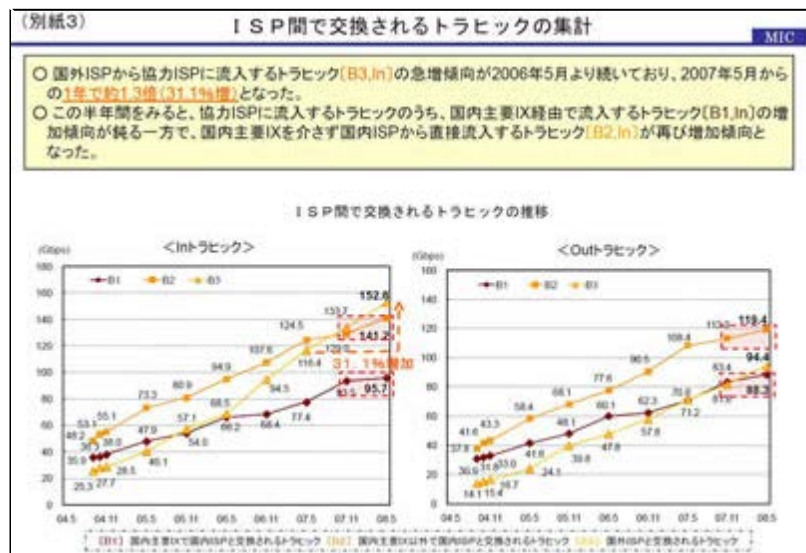
また、我が国における「ブロードバンドサービスの契約数等（注3）」の集計結果をもとに算定した、1契約当たりのトラフィック量は、2006年頃から増加しています。

（右記、別紙2のとおり）



また、ISP同士で交換されるトラフィックについては、国外ISPから協力ISPに流入するトラフィックの急増傾向が2006年5月より続いており、2007年5月からの1年間で約1.3倍（31.1%）のペースで増加しています。

（右記、別紙3のとおり）



注1：「インターネットイニシアティブ（I I J）」、「NTTコミュニケーションズ」、「ケイ・オプティコム」、「KDDI（旧パワードコムを含む。）」、「ソフトバンクBB」、「ソフトバンクテレコム」のISP6社7ネットワーク

注2：江崎浩東京大学教授、加藤朗東京大学准教授、長健二郎研究員（I I J）及び、福田健介国立情報学研究所准教授

注3：本集計では、ブロードバンド契約者は、DSL及びFTTHサービスの契約者を指します。ただし、ブロードバンドサービス1契約当たりのトラフィック量の算出に用いた契約数は、FTTHアクセスサービス、DSLアクセスサービス、CATVアクセスサービス及びFWAアクセスサービスをいいます。

以下詳細については<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080829_9.html>を参照願います。

平成19年度の一般放送事業者及び有線テレビジョン放送事業者の
収支状況
(平成20年9月3日総務省報道発表)

総務省は、この度、平成19年度の放送事業者の収支状況について、別紙のとおりとりまとめました。概要は以下のとおりです。

○地上系一般放送事業者

テレビジョン放送事業者の営業収入は、3年連続ほぼ横ばい。営業費用はここ数年増加傾向で推移。営業損益、経常損益、当期損益とも大幅に減少となった。

コミュニティ放送については、19年度の新規開設18社中1社が、相対的に収益が大きい有線テレビジョン放送事業者が兼営していることから営業収益、営業費用、営業損益、経常損益、当期損益が増加となった。

○衛星系一般放送事業者

営業収益は微増、営業費用はほぼ横ばい。BSデジタル放送では、本年度初めて単年度黒字となり、衛星放送事業全体の収支状況は改善傾向にある。

○有線テレビジョン放送事業者

ケーブルテレビ事業全体の営業収益、営業費用はここ数年増加傾向で推移。営業利益は前年度に比べて大幅な増益となった。

【別紙（報道資料より抜粋）】

詳細は<http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/pdf/080903_4_bs.pdf>を参照

(別紙)

1 一般放送事業者(地上系)収支状況						2 平成19年度の一般放送事業者(衛星系)収支状況					
[金額単位: 百万円・前年度比単位: %]						[金額単位: 百万円・前年度比単位: %]					
区分	事業種別	営業収益 (前年度比)	営業費用 (前年度比)	経常収益 (前年度比)	当期純利益 (前年度比)	区分	事業種別	営業収益 (前年度比)	営業費用 (前年度比)	経常収益 (前年度比)	当期純利益 (前年度比)
事業の別						衛星放送					
	テレビジョン放送事業	93 (99.8%)	1,928,572 (102.1%)	89,434 (87.6%)	107,959 (73.1%)	衛星放送	11	104,023 (106.8%)	98,652 (98.5%)	5,363 (-)	4,162 (-)
(内訳)											
	VHFテレビジョン事業	16 (16)	1,551,293 (99.8%)	1,481,603 (102.0%)	69,685 (68.0%)	衛星放送事業	(12)	93,710 (104.9%)	89,051 (96.2%)	4,655 (-)	3,712 (-)
	UHFテレビジョン事業	77 (77)	466,720 (100.1%)	446,969 (102.4%)	19,749 (66.3%)	衛星放送事業	(13)	81,301 (105.4%)	89,051 (97.0%)	4,889 (-)	3,712 (-)
	中波(AM)放送	34 (34)	408,329 (97.6%)	402,030 (100.2%)	6,291 (36.5%)	衛星放送事業	(14)	83,484 (106.7%)	88,741 (107.2%)	4,743 (37.2%)	2,296 (-)
(内訳)											
	VHFテレビジョン事業	32 (32)	399,729 (97.5%)	393,420 (100.1%)	6,309 (37.4%)	衛星放送事業	(15)	29,299 (120.4%)	27,004 (98.5%)	2,296 (-)	2,296 (-)
	UHFテレビジョン事業	2 (2)	8,596 (101.8%)	8,610 (106.5%)	△11 (-)	衛星放送事業	(16)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
	中波(AM)放送	67 (67)	140,586 (92.5%)	138,514 (94.4%)	2,072 (39.8%)	衛星放送事業	(17)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
(内訳)											
	中波(AM)放送事業	13 (13)	63,722 (94.0%)	63,505 (95.6%)	217 (16.1%)	衛星放送事業	(18)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
	短波放送事業	1 (1)	2,325 (95.2%)	2,264 (96.6%)	59 (61.8%)	衛星放送事業	(19)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
	超短波(FM)放送事業	53 (53)	74,539 (91.1%)	72,744 (92.7%)	1,796 (47.8%)	衛星放送事業	(20)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
	衛星放送事業	2 (2)	3,050 (95.7%)	2,291 (69.5%)	759 (112.2%)	衛星放送事業	(21)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
計		190 (190)	2,969,978 (99.0%)	2,471,413 (101.3%)	98,551 (63.4%)	衛星放送事業	(22)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
コミュニティ放送		213 (201)	24,638 (117.0%)	24,033 (116.3%)	605 (152.7%)	衛星放送事業	(23)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)
合計		403 (397)	2,994,616 (99.2%)	2,495,446 (101.4%)	99,156 (63.7%)	衛星放送事業	(24)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (-)	0 (-)

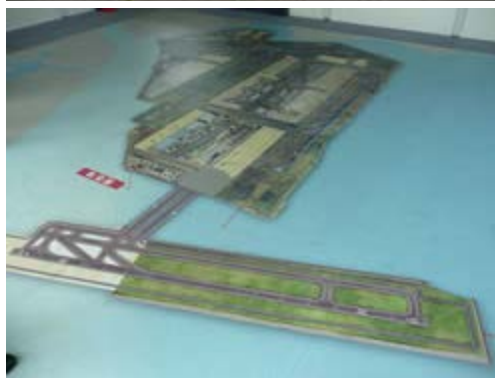
編集後記

9月7日に羽田空港で「空の日フェスティバル2008」が開催されたので行って来ました。担当の方に「空の日」のいわれを聞くと、日野・徳川両陸軍大尉の我が国初の動力飛行を記念して昭和15年に、「航空日(9月28日)」が設けられ、平成4年に、「航空日」から「空の日(9月20日)」へ改称され、この前後に空港毎にイベントが開催されるとのことでした。

展示品の中に飛行検査機がありました。これは空港にある電波を使用した設備の点検・確認を行うためのもので国土交通省の所有だそうです。(先端下部に有るのはILSの反射板)

最後に建設中のD滑走路を目の前で見られるD滑走路展望台に行って来ました。展望台3階の展示室の床に1/1000の地図があり、目の前の建設風景と照し合せながら工事の進捗を見ることが出来ました。

また屋上展望台からは羽田空港に着陸する飛行機を間近に見ることが出来ます。



(澤井 利和)